

## 例 言

- 一、本書は、中富町発足十五周年（昭和四四年八月一日）記念事業の一つとして計画されたものであり、ここを記述の区切りとしたが、資料、統計、その他原稿事情によっては、その後のものを適宜加えて編集にあたった。
- 二、本書の記述に、残存資料の欠落等の関係もあって精粗繁簡があり、また表現形態に多少の差異があるのは、各編はもちろん、時に章節によって執筆者を異にしたためであって、この調整には修文の時点で努力を払ったつもりであるが、まったきを得なかつたことを了承していただきたい。
- 三、記述内容に重複する個所があるが、それはその章節としてのまとまりや、また読む人の理解しやすさを考えて、あえてしたものである。
- 四、引用古文書は町民の要望もあり訳文にし、本文はつとめて現代かなづかい表記に基づき、漢字は当用漢字の使用を原則としたが、一部旧漢字の使用を認め、この場合はルビを使用することにした。
- 五、出てくる人名については、歴史的記述の方法をとり、本文のなかでは敬称をはずしたが、資料の提供者、文化財の所蔵者などについては、一般の例にならって「氏」を用いた。
- 六、本書の表紙背文字は、中富町誌編纂委員会々長笠井清巳（現町長）の揮毫である。また表見返しのは明治三九年本県発行「甲山峡水」のうちの「富士川屏風岩」からとり、裏見返し図は編集委員会において郷土西島の昔の紙すき工程を模写したものである。
- 七、本書の編さんは中富町編さん委員会において執筆取りまとめ、事務処理は町誌編さん室があたった。
- 八、本書に搭載した以外の資料等は、資料編として同時に別冊刊行する計画もあったが、これは他日に譲ることにした。